

## 活動先での学び

15ff1085 甲斐大貴

私はネットワーク大府に活動先として行かせてもらいました、このネットワーク大府では、地域に密着し様々な人が利用でき高齢者や子供たちが過ごしやすい環境となっていました。ここでは市民生活支援サービス、地域ふれあいサービス、大府市委託事業、ヘルパー養成、介護保険サービス、障がい者総合支援などを行っている。

このサービスラーニングの活動先での目標は自分から積極的に動いて自分でやるべき仕事を見つけるということを目指して活動を行った。しかし最初の場所では自分では話しかけたり何か自分で仕事を探したりと自分のなかではがんばっているつもりになっていてご飯を配ったり皆さんとゲームをしたりするのも少し行動が遅くなっていて自分よりも先に利用者の方が率先して動いてくださり自分が利用者の方に教えてもらったりと利用者の方に迷惑をかけてしまうことがあった。活動内容としては、利用者の方にご飯を配ったり一緒にゲームや体操をしたり、子供たちとは虫取りやゲームや食事全体では、自分の一芸としてタックルのパフォーマンス自分の部活のラグビーの話や子供たちには手品などを行いました。しかしその中で出た課題があり、高齢者の方と会話をしているとき自分の声が小さくて聞こえてないことや、利用者同士の話の食い違いで軽い言い争いがあった時の対応の仕方や自分がその場でどのように動いてれば良かったのかわからなかった。子供たちとは、寄ってくる子供たちだけではなく全員に平等に接していくことが大切と思った。しかしそれができていなく同じ子供としか接していないことがあった、全員とまったく同じように楽しむことはできないかもしれないがそれに近いことはできると思う。子供たちにも一人ひとり違う趣味があり嫌いなものがあると思う、それを理解して子供たちが楽しみながら学んでいく環境がとっていけるのである。そして自分がその立場になった時にしっかりと話を聞いてあげるか子供たちの性格を理解していけるか心配にはなるがどのような接し方をすればいいのかなど学んだ。誰に対してもどんな人でも相手の気分が悪くならないような接し方をすることが基礎として大切なだと分かった。その年代に合わせた会話お年寄りの利用者のかたには、自分も知らない戦争の話や子供たちには流行っているアニメの話など年代によっての会話の内容を考えないといけないことが分かった。

さらに、私たちは障がい者スポーツ（ウィルチェアラグビー）のことについて研究をしました。夏のサービスラーニングと今回の研究は関係してくるものがないと思いますが、しっかりと関係をしていることがある。それは、お年寄り利用者と子供たちどちらも、ラグビーについてある程度知っていること。ルールなどはわかりませんが、何人でプレーをするのかどんなボールを使うかなど知っている利用者の方がいてラグビー自体もいろんな人に知ってもらえることが分かった。ラグビーの知名度があがってきていてそのなかでも障がいがあるひとでもラグビーをしたいと思う人が増えてきていて車いすに乗った状

態でできる車いすラグビーというものができ大会で好成績を残すほど日本が活躍しているのである。この研究で車いすラグビーが日本でも人気になりつつあるということが分かった。それはラグビーの認知度が上がってきたからということも分かった。

以上のサービスマーケティングを通して自分は、相手の話の聞き方自分の話す内容などが相手に適しているのかなど考えることができるようになった。さらに今後は、研究したいことなどがあればその関係性を明確にしたいと思う。サービスマーケティングのような施設に行くことになったら学んできたことをしっかりと発揮していきたい。

## 一年間のリフレクション

社会福祉学部社会福祉学科

15FF2000 佐藤 佑美

### ① ネットワーク大府とは？

ネットワーク大府とは、「住み慣れた町で生き生きと安心して暮らす」ことをモットーに日々みんなで助けあいながら活動している表 1 に示す施設の総称である。この団体は高齢者のみを対象としているのではなく、子どもからお年寄りまでの幅広い地域住民を対象としている。医療や介護・病気予防・生活支援などを提供している。また地域ふれあいサービスとして、さおり織やパン工房、さらに人材育成にも力をいれており多くの研修がある。まさに大府市の福祉の担い手となっている団体といえる。

表 1 連携施設

「あいこでしょ」・「このゆびとまれ」	通所介護
「いしがせ」	多機能ホーム
「わかくさ」	グループホーム
「キッズクラブ」	子育て支援
「訪問介護」	家事・介護支援



### ② 活動内容

<目標>

私の活動目標は、「施設って何？」といったふと思った疑問を解決することである。活動前の私の答えは一言で表すと「福祉を提供している場所」である。その通りだと思うが、具体的には何をしているのか？何を目的にしているのか？といった「何？」を解決するために、表 2 に示す活動を 6 日間行った。

表 2 活動日程

8/22 (月)	8/23 (火)	8/24 (水)	8/29 (月)	8/30 (火)	8/31 (水)
ミーティング 通所介護事業所 「あいこでしょ」	多機能ホーム 「いしがせ」	キッズクラブ	グループホーム 「わかくさ」	追分デイサービス 「このゆびとまれ」	キッズクラブ

### <結果>

この活動を通して分かったことがある。6日間といった短い期間ではあったが毎日お年寄りや子供たちと関わったことで次の仮説を立てることが出来たのである。

- ✓ 生活していく中で重要な自分」の趣味や生きがいがづくりのサポートを行っている。
- ✓ 人々の抱える（経済的・病気・一人暮らし・介護が必要になった時）さまざまな不安要素を取り除くことを行っている。

また自分は病気や障害についての知識が足りないことが明確になったのである。

### ③ 学び・気づき

目標を達成するためには仮説を実証する必要がある。しかしサービスラーニングは6日間といった結論を出すには短すぎる期間であった。だから私はサービスラーニングの学習後、自身の体験と感じたことを裏付けするためにインターネットなどで情報を集めることにしたのである。さらに村上ゼミの中の私と似た課題を持つ友人とグループを作り、「高齢者支援」をテーマに研究していった。

- ✚ 地域での高齢者支援と施設での高齢者支援の違い
- ✚ 地域に暮らす高齢者と施設で暮らす高齢者の生きがい
- ✚ 地域と施設の連携
- ✚ 町おこし

以上の4つの項目で構成しまとめた。私たちのグループは、自身の体験で感じたことを結論づけるため、地域と施設を比較しながら調べ学習を行ったのである。この研究を通して私は、高齢者支援には地域と施設それぞれにいいところがあり、どちらも高齢者のあり方を尊重することが大切であることと、高齢者も地域で暮らす一員として受け入れることが大切であることを学んだ。

### ④ まとめ

以上のサービスラーニング学習を通して自分で課題を見つけ仮説を立てること、結論を出すために調べることを、そしてみんなで1つのテーマを作り上げるといった今までしたことのない経験をすることができた。自分から進んで取り組もうとしたことがなかった私が活動や発表をしたことで、自分で何かしようと思うように変化したのである。これから3,4年生になりゼミの研究や卒論などの大きな研究をしていく。そこでは、今回身に着けた力をいかしたい。またもう一つの課題であった病気や障害などへの理解についても取り組むつもりである。